

たむらリサイクルプラザが完成しました!



名称 たむらリサイクルプラザ
場所 田村市船引町大倉字後田43番地
(旧田村市船引清掃センター)
営業時間 午前9時～午後4時
開所日 平日、第2土曜日、第4日曜日
電話 84-2840

市のリサイクル推進施設として田村市船引清掃センター跡地に建設を行っていた「たむらリサイクルプラザ」が1月31日に完成しました。たむらリサイクルプラザは、各家庭から出されるプラスチック、ペットボトル、かん類、びん類の処理を行い、適正なリサイクルを推進していく施設です。リサイクルを推進していくためには、市民の皆さま一人一人の協力が不可欠ですので、分別の徹底にご協力をお願いします。なお、たむらリサイクルプラザでは、旧施設と同様に家庭ごみや粗大ごみの直接搬入受付を行います。2月1日より搬入方法や手数料が一部改定となりましたので、ご確認のうえご来場ください。

処理工程



「プラスチック・ペットボトル処理機」

施設に搬入されたプラスチック・ペットボトルは人の目で選別が行われ異物が取り除かれます。その後、処理機にて圧縮梱包されます。



「圧縮梱包されたペットボトル」

この状態でリサイクル業者に引き渡され、資源として新たな製品へ生まれ変わります。

分別方法・リサイクル先

プラスチック

分別方法

商品の中身を出したり食べたりして不要になるプラスチック製の容器・包装が分別対象です。汚れが残っている場合は取り除き、汚れが取れない場合やおもちゃ、バケツなどのプラスチック製品は「もやせるごみ」に出してください。

リサイクル先

プラスチックを作るための化学原料として生まれ変わります。

ペットボトル

分別方法

キャップとラベルを外し、軽くすすいでから出してください。油や調味料が入っていたペットボトルなどすすいでも汚れが取れないものはリサイクルができませんので「もやせるごみ」に出してください。キャップとラベルは「プラスチック」に分別して出してください。

リサイクル先

新しいペットボトルとして生まれ変わります。

かん

分別方法

ジュース・酒等の飲料用が分別対象です。軽くすすいでから出してください。缶詰の缶はもやせないゴミとして出してください。なお、アルミ缶・スチール缶を分ける必要はありません。

リサイクル先

(アルミ缶)新しい缶として生まれ変わります。
(スチール缶)新しい缶になるほか、様々な鉄製品として生まれ変わります。

びん

分別方法

軽くすすいでから色別に分けて出してください。キャップやふたは取り外し、金属製のもの「もやせないごみ」へ、プラスチック製のもの「プラスチック」に分別して出してください。

リサイクル先

新しいびん容器として生まれ変わります。

直接搬入方法

従前よりごみを直接搬入する場合には市指定のごみ袋に入れていただくようお願いしておりましたが、2月1日より市指定のごみ袋に入れなくとも、有料にて搬入することができるようになりました。搬入するごみは、中身が見えるように透明もしくは半透明のビニール袋に入れ、ごみが飛散しないように注意してください。なお、市指定ごみ袋により搬入すると受付時に料金の支払いが不要となるほか、混雑の解消にもつながりますので、引き続き市指定ごみ袋による搬入をお願いします。

直接搬入手数料

- もやせるごみ**
10kgにつき50円 ※市指定ごみ袋での搬入は無料
- もやせないごみ**
10kgにつき50円 ※市指定ごみ袋での搬入は無料
- 資源ごみ (プラスチック・ペットボトル・かん・びん)**
10kgにつき50円 ※市指定ごみ袋での搬入は無料
- 粗大ごみ**
10kgにつき100円 ※市指定ごみ袋に入らないもの
- 特定家電**
1台につき1,300円 ※別途、家電リサイクル券を持参
- 紙類**
無料 ※種別ごとにひもでしばるか、紙袋に入れ封をして搬入



市民部 環境課 ☎81-2272

田村市公式 LINE でごみの分別についても検索できます▶

今月号のChallengerは田村高校(以下、田高)ウエイトリフティング部に所属する吉田紳之介さん。吉田さんは、昨年8月の全国高校総合体育大会で5位入賞、昨年10月のごしま国体(国民体育大会)で7位入賞を果たしました。この経験を糧にさらなる高みを目指し、ウエイトリフティングの強豪校で、競技を続けていくことを決めました。

高校進学と同時にウエイトリフティングを始め、その魅力に心を奪われた吉田さん。一心不乱にバーベルと自分自身に向き合い続けた3年間について、お話を伺いました。

Profile

2005年12月31日生まれ。滝根中出身。169cm、96kg。階級は96kg級。恩師・尊敬する人物は顧問の小野寺先生。好きなスポーツ選手は田村高校OBの近内三孝選手、遠藤梨季選手。趣味は読書、温泉、筋トレ。好きな食べ物は鍋、ハンバーグ、カレーライス。将来の夢は警察官、学校の先生またはスポーツインストラクター。座右の銘は「粉骨砕身」。



新たな覚悟を抱いて

挑戦者 第23回

田村高校3年 ウエイトリフティング部 吉田紳之介

始めたきっかけ

中学2年の時に交通事故に遭い、ケガの治療で通っていた接骨院の先生から「ウエイトリフティングをやってみたら」と勧められ、田高にウエイトリフティング部があることを知りました。その頃、少し太っていることがコンプレックスで「かっこよくなりたい、自分に自信を持ちたい」と思っていました。ケガが治った頃から筋トレを始めるようになり、高校でウエイトリフティング部に入学しようと決意しました。入部後、バーベルを使った練習に慣れず、最初はケガばかりしていました。一番つらかったのは、記録が伸び悩んだ高校2年の夏で「才能がない」と感じ、モチベーションが下がってしまいました。その時に、先生や先輩方から「メリハリをつけた練習」をするようにアドバイスいただきました。計画性を持ち、練習頻度や内容に強弱をつけることで、記録が出るようになり、最後のインターハイでは5位入賞を成し遂げられました。ウエイトリフティングを始め、ウエイトリフティングの楽しさを感じて継続することの楽しさを

知り、身体が大きく変わったことで、気持ちもポジティブに、自分に自信が持てるようになりました。また、身体や心のケアほど大事なものはないと学び、ストレッチや温泉に行くなど練習以外の過ごし方も工夫するようになりました。

新天地での挑戦

この3年間は周りの方々に恵まれ、「世界」を経験した田高OBの先輩方から教わる機会も多く、目指すべき存在が近くにいることが競技を続ける原動力になりました。「先輩たちの記録に追い付きたい、勝ちたい」と強く思うようになり、大学でもウエイトリフティングを続けます。悩むこともあると思いますが、新しい環境で、新たな刺激や影響を受けてもっと上の「世界」を目指して頑張ります。



クリーン&ジャークの種目で自己ベストを樹立した瞬間(昨年8月のインターハイ)



田高での練習風景

1年時は、真面目でなんでも慎重すぎるタイプでしたが、とても研究熱心で、2年の後半から身体も大きくなり、記録も伸びてきたので、目標を持ってしっかり頑張れる選手だと実感しています。大学進学後は、挙上スタイルを確立し、もう一つ上のレベルで頑張ってほしいと期待しています。競技以外のところでも見聞を広め、さまざまなことを経験して、人間としても一回りも二回りも大きく成長することを願っています。



顧問 小野寺 浩亀 先生